

社会

3年

単元名

「安全なくらしを守る」

実践の概要

通報者が火事を発見し、119番通報をしてからの通信指令室とのやり取りについて、プログラミングを通して考えました。消防署見学での学びや教科書の内容を生かし、何をどのような順番で尋ねるとよいかを考え、通信指令室からの質問や指示を作成して通報者に送ります。緊急車両も動かすことができるため、どのようなことを尋ねると場所や状況を把握し、消防署から消防車や救急車を出動させることができるかについても考えることができます。これらの活動を通して、大切なことを素早く聞き出す工夫について振り返ります。

プログラムを作成する過程では、試行錯誤を繰り返し、なぜやり取りが成立しないのか、どこまではきちんと組み合わせられているのかを考えさせることで、プログラミング的思考の育成を目指します。

プログラミングに関する学習活動の分類

B 学習指導要領に例示されていないが、学習指導要領に示される各教科等の内容を指導する中で実施するもの

本時の目標

指導時数

119番へ電話したときに尋ねられることや答えることをプログラミングによってシミュレーションし、大切なことを素早く聞き出す工夫について考えることができる。

全11時間

単元計画

- ①火事による人の被害や火事の件数、原因について話し合う。
- ②消防署の火事に対する取り組みや、そこで働く人々の活動について調べる。
- ③④消防署を見学し、火事に素早く対応するための消防署の施設や設備の工夫、働く人々の仕事や働きを見つける。
- ⑤119番通報の仕組みを知り、大切なことを素早く聞き出す工夫について考える。(本時)
- ⑥消防署で働く人々の工夫や努力について考える。
- ⑦学校の消防施設を調べ、その配置図をもとに話し合う。
- ⑧地域の消防設備や消防団の働きを調べ、地域を守ろうとしている消防団の思いを考える。
- ⑨大きな災害の際には、都道府県を超えた活動が大切であることを考える。
- ⑩災害に備える事例について交流し、地域の一員として何ができるかについて考える。
- ⑪これまでの学習を振り返り、消防署の働きについての自分の考えを深める。

使用ソフト

scratch

準備物

ワークシート

プログラム例、児童の活動の様子などの写真



成果と課題

○意欲的に学習を進め、作成したプログラムを何度も実行し、意図した通りにならない場合はどこが間違っているのかについて考える姿が見られた。

●やり取りについて考える時間を増やせるよう、ローマ字入力の定着を図っておく必要がある。

●受け取る→送るの流れを繰り返すことをきちんと押さえる必要がある。